

## 第 4 回 益田市立地適正化計画策定審議委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和 4 年 1 0 月 1 2 日（水） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分
- 2 場 所 益田市役所 3 階大会議室
- 3 出席者
  - (1) 委 員：1 0 名
  - (2) 事務局：8 名（市 6 名、エブリプラン 2 名）

## 4 意見・質疑

## (1) 防災指針について

- ・これまでの事業や慣習に捉われない本当に正しい方向を向いた計画が必要。基本的に、海側にまちをつくるのは危険であるため、まちは山側につくるべきで、高規格道路も海側を通るが、そのルート自体を見直しても良いと思う。人口が減少してきた時には土砂災害の少ない山側に居住区域をシフトするのが良いと思う。

**●山側へのまちづくりに方向転換すべきでは**

- ・人口減少が進む中、医療・福祉・教育・交通等の点を考えると、まちを維持していくためには、どこかのタイミングで集住しなければならない。災害リスクの面で山側が良いことも理解できるが、土砂災害等が怖い部分もある。分散型では益田市は保てない。本日の資料に具体的な時期、内容を追加してほしい。災害リスクがある中で、市民の方からすると具体的な対策事項が無いと不安である。

**●集約型の都市が必然となる。防災対策の取組について具体的な時期・内容を示すべき**

- ・河床掘削等の治水事業を進められているので、防災対策について市民へ周知することも必要ではないか。
- ・審議委員会の存在意義を考えると、委員が主体性をもって、市の提案に対してしっかりとした意見を出していく必要があるのではないか。
  - 同感で、この会としての意見を集約すべき。
  - ⇒その考え方で意見を出すのであれば、災害リスクの大きな地域に居住を勧めることはできない。しかし、将来を考えると、まちのコンパクト化は必要であるため、条件付きで推進することに賛成。

**●委員として、主体性を持った発言をしたい**

- ・居住誘導区域の案の地域で、市民の方がどうやって安心して生活してもらえるかが重要であるため、防災対策が十分なのか議論すべき。昭和58年の水害時と比較して、現在はダムがあり、5年後には更に防災対策が充実するというような視点で説明する必要がある。実際、個人的には近年の治水事業等により、水害への恐怖心はかなり減ったと感じる。

●近年の防災対策により不安は軽減している。今後の防災対策の説明を

- ・区域設定に伴い税制や補助金等の優遇措置は考えられているか。優遇施策等があると、周辺部の住民の方が不公平感を抱くのではないか。  
→施策については次の議題で説明させていただく。(事務局)

●優遇施策は不公平感を生む恐れがある

(2) 誘導施策について

- ・重点を絞って、確実に取り組むものを明記して欲しい。
- ・子育て支援や空き家バンクの取組は、居住誘導区域に限って何かをするということか。これらの施策自体は市全体に関わることなので、本計画の指標としては異なるのではないか。

●誘導区域等の計画内容と直接関連する施策が求められるのでは

- ・地価が下がることは考えられないか。  
→中長期的なことなので、急激な地価の変動はないものと考えている。全国的な事例を見ても同様の傾向。(事務局)
- ・久城については医師会病院も近く、消防署も移転してくる中で、居住誘導区域から除外しても良いのか。

(3) 数値目標の設定について

- ・目標数値を具体的に出し欲しい。現状数値を5年後に、この数字を目指すという見せ方が良い。  
→目標数値は明確に示す予定で、本日は指標自体が適正化どうかについて、ご審議いただきたい。(事務局)
- ・何年先を見通した計画にするのか。20～30年先を見据えたといった場合も、10年の開きがあり、明確にしておく必要がある。

●計画期間等を明確に